

大学受付No.
(大学記入欄)

活動の総称

vegehouse 農家さんへ建築学生からの贈物

活動計画の内容

1. 活動動機 「都市の農地を守りたい」

都市農地の魅力

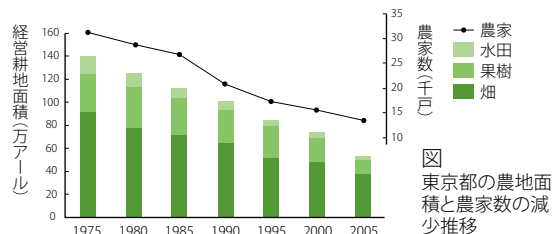
都市農地は新鮮な食材を提供し、地産地消に貢献するだけでなく、ヒートアイランド現象の緩和や生物多様性といった環境面、災害時の避難場所や水害から守る治水機能といった防災面としても貢献している。また、何よりも私達の都市生活に安らぎを与えてくれる魅力を持っている。



写真
上左: 新鮮な野菜
上右: 防災に貢献する農地
下: 食農教育としての農地

問題の背景

しかし、都市の農地は後継者不足により、絶滅の危機に扮している。後継者不足の原因は農業では儲からないという経済的な理由や、地域住民からの農薬や堆肥の臭い、砂埃に対する苦情による精神的理由の、2点が挙げられる。(主因は農地に宅地並みの税率で掛かる高額な相続税に問題があるが、法改正のハードルは高い。)



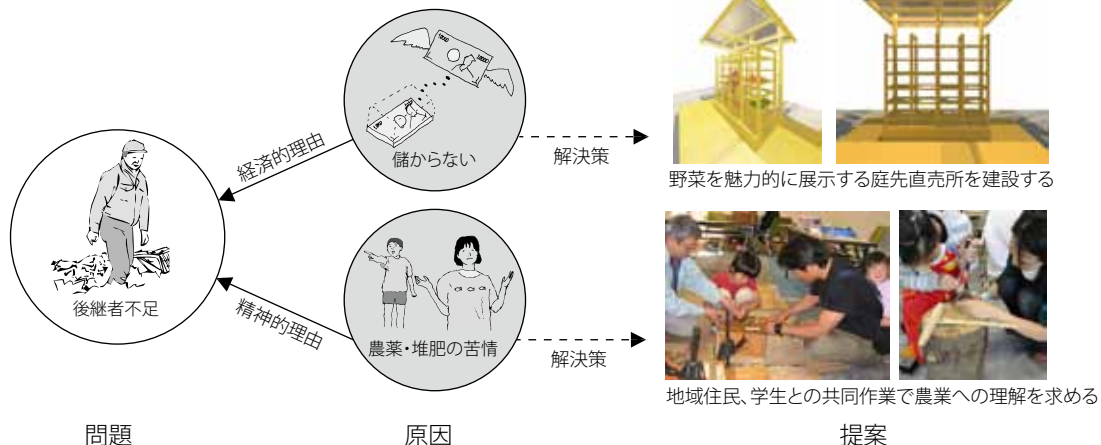
解決への模索

農家は経済的理由の解決として、農協やスーパーの規格に乗らないような、珍しく、付加価値の高い野菜を少量多品目で生産している。さらに、栽培1次産業(生産)、2次産業(加工)、3次産業(販売)を個人の農家が一括で担う、農業の6次産業化を図ろうと努力している。また、苦情の対策として、地域住民に対して、都市農業の魅力伝えようと努力している。

2. 活動概要 「都市農地の魅力を伝える、世界で一つの庭先直売所」

私達建築学生にできること

私達は建築を志す学生としての技能を活かし、農家が個人で所有する「庭先直売所」【別紙1参照】を設計し、建設しようと考えた。そのことによって農協やスーパーに流通しない、付加価値の高い野菜の魅力的をPRすることができるのではないかと、農業の第6次産業化に3次産業の点で貢献できるのではないかと。お互いの能力を活かした産・学連携で都市農業の活性化を目指す。また、地域住民と学生が協力して楽しみながら直売所を建設できるような、地域住民参加型の仕組みを設けることによって、農業のことや、野菜の魅力を知ってもらおうきっかけにしたいと考えた。



活動計画の内容 (つづき)

3-0. これまでの活動(2010-2011)

定例ミーティング

毎週木曜日の定例ミーティングを重ねた。設計案の検討、模型作り、作業工程の打合わせなどを行ってきた。

2010.12.7 クライアント農家の決定

庭先直売所を必要とする農家さんを募ったところ、小金井市の農業者の高橋金一さんから建設を依頼してもらった。

2011.1.8 挨拶・プレゼン

庭先直売所の設計作業には、法政大学、デザイン工学部、建築学科の永瀬克己教授、網野禎昭教授にご指導を頂いている。永瀬教授、網野教授にご同行頂き、イメージ模型を持って、クライアントの高橋金一さんに挨拶へ行った。

2011.5.26 工務店の決定・挨拶

永瀬教授の紹介から、岩崎工務店へ建築の加工・施工の協力をお願いした。学生が建設作業を体験できるような形式で、職人に指導してもらえることになった。

建築基本設計案の完成

建築設計の作業の試行錯誤を繰り返し行った。建築物が構造的に成り立つのか、実寸でのモックアップを制作して実験を試みた。これらの過程を経て、設計案が完成した。【別紙1,2:設計案】

2011.6.7 第2回プレゼン

設計案を3案プレゼンした。そのうちの1案の建築的基本構造を採用し、野菜の魅力的かつ機能的な展示方法を煮詰めることになった。



写真1 農家さんへのプレゼンテーション



写真2 庭先販売所を建設する敷地



写真3 モックアップによる建築の実験

3-1. 活動内容「建築教育としての庭先直売所セルフビルド」

3-1-0. 庭木直売所建設

法政大学建築学科で有志を募り、2010年から準備を進め、現在、主要構造部の基本設計まで完成した。本プロジェクトでは加工から施工、装飾、竣工(完成)までを実践的な建築体験教育として取組む。教授からの指導は勿論、依頼者との協議、地元工務店など様々な主体との関わりを通して、座学では得られない建築体験、社会的教養を養う。

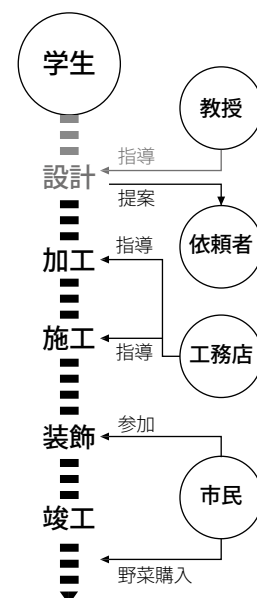
3-1-1. 加工

加工はまず材の断面を磨くため、プレーナーや自動かんなを掛ける。次に加工を行う上でのガイドラインを付ける作業である墨付けを行う。次にノミやナタを使って仕口を加工していく。これらの作業を公務店の協力のもと、行っていく。その後防腐処理、撥水加工を行う。
※機材のレンタルや加工は指導料として支払い、防腐剤を購入する。

3-1-2. 施工

工務店の指導のもと、建築を組み立てていく。加工した仕口を合わせ、ボルトなどで固定していく。可能な限り釘を使用しない、解体可能な建築を目指す。(現在の建築は釘を大量に使用しているため、再利用不可能になっているため。)

※施工指導の指導料を支払い、ボルト代を購入する。



活 動 計 画 の 内 容 (つづき)

3-2. 活動内容「地域住民共同での野菜展示台づくり」

3-2-0. 地域住民と共同で野菜展示台づくり

庭先直売所の躯体完成後は野菜の展示台をつくる。農協やスーパーでは販売していない珍しい野菜を魅力的に展示するための、世界に一つしかない展示台だ。この展示台づくりを地域住民(市民)を巻き込んだイベントにする。展示台づくりを楽しみながら農業や野菜の魅力をPRできるようなプログラムにすることで、地域住民に農業の理解を深めてもらう。これにより、都市農業衰退の原因である儲からないという経済的理由と苦情などによる精神的理由の解決を図る。

3-2-1. 装飾

まず、展示台の設計図を完成させる。市報掲載や公共掲示版などへのポスター掲示により、イベント参加者を募る。参加者に展示台の作り方を伝え、展示台づくりを共同で行う。

※デザインは学生が行い、ポスター印刷を印刷会社に委託する。

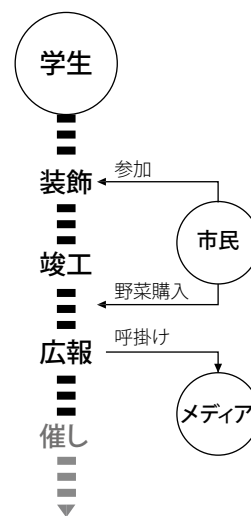
3-2-2. 竣工

竣工後はお世話になって教授、工務店、市民の方々と交えて、竣工式を行う。依頼者の農家さんが育てた野菜を調理し、パーティーを行う。

※費用は自費とする。

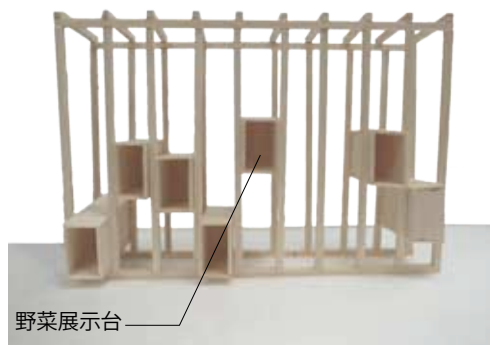
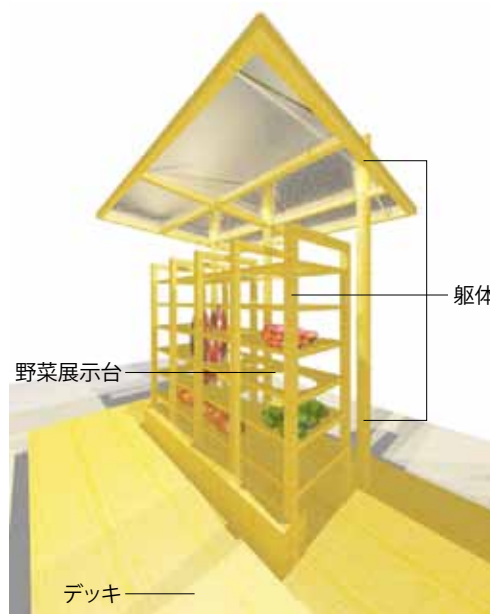
3-2-3. 広報

直売所の完成後は「散歩の達人」や「多摩らび」などの地域散策ガイドの雑誌、新聞社に取材・掲載してもらえるよう交渉を行う。既に朝日新聞の記者には興味を持ってもらっている。完成後、取材予定。



4. 実施スケジュール

7月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 加工 ■ ・背割加工 ■ ・乾燥 ■ ・磨き加工 ■ ・墨付け ■ ・部材加工 ■ ・仕口加工 	
	展示台デザイン	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施工 ■ ・デッキ施工 ■ ・躯体施工 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広報 ■ ・ポスター制作 ■ ・市報掲載 ■ ・メディアリリース
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 装飾 ■ ・展示台作りイベント(定員10名) 10:00 庭先直売所の経緯 <li style="padding-left: 20px;">高橋さんの野菜レクチャー 10:30 展示台づくり開始 12:30 昼食 <li style="padding-left: 20px;">(高橋さんの野菜メニュー) 13:30 展示台づくり再開 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 竣工 ■ ・竣工パーティー ■ ・メディア露出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広報 ■ ・メディアリリース
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 催し ■ ・農業祭でのパネル出典 ■ ・販売促進イベントの企画 	
		※販売促進イベントは随時3月まで実施



活 動 計 画 の 内 容 (つ づ き)

4. 予算計画の見積

設計図から建設に掛かる材料の費用を積算した。

名称	サイズ	数量	単価	小計	備考
ボルト	A-40	10	200	2,000	
アンカーボルト	A-40	15	150	2,250	Z認定品
ナット	A-40	25	300	7,500	
ワッシャー		25	50	1,250	
接着剤 (KRボンド)	1kg	1	3,900	3,900	
木材 (角材2m)	60×60	25	1,090	27,250	杉材
木材 (板材25mm)	420×4000	3	17,640	52,920	杉集成材
木材用防腐塗料	4ℓ	1	6,900	6,900	
木材用撥水塗料	4ℓ	1	9,600	9,600	
波板パッキン		10	590	5,900	
ポリカ波板	660×2730	10	1,980	19,800	
ターンバックル		3	1,100	3,300	
ステンレスワイヤー		1	3,600	3,600	
合計				146,170	

実 施 時 期

2011年7月1日～2012年3月31日

活動から期待される効果

農産物の売り上げ向上、都市農業への理解による農地保全

都市部の農家は狭小農地でこだわり抜いた野菜を作っている。依頼者の高橋さんは特に珍しい付加価値の高い野菜の栽培に努めている。農業の第6次産業化が求められる時代、都市部の農家では野菜を魅力的に見せる庭先販売所が必要とされている。野菜を魅力的に展示する販売所を制作することによって、野菜の売り上げ向上が期待される。また、地域住民と共同制作によって、庭先販売所の認知度の拡大、都市農業への理解へとつながることが期待される。

地産地消の促進による環境保全、地域コミュニティ再生

消費者がスーパーで外国産野菜を購入することは、食糧自給率やフードマイレージの観点からも社会に良い影響を与えない。地域の野菜を地域で消費するような地産地消を促進することによって、都市農地保全に貢献し、食の安全保障や地球環境保全、地域コミュニティ再生へとつながっていくだろう。

都市農業活性化のモデル事業へ

本プロジェクトの実践を通じて、庭先販売所のより良い制作システムを構築し、来年度以降も継続して建設していく予定だ。さらに都市農業活性化の産・学連携の成功例として、各地へ波及していくことを期待している。

建築実践の教育プログラムによる学生への効果

建築学科の学生は建築の造り方を学ぶが、建築を実際に造ることはない。しかし建築は座学では養うことができない、実務経験やコミュニケーション能力が必要とされる。本プロジェクトにより、学生が小さな建築を実物で造りながら経験を積み、依頼者や工務店、市民との関わりの中で、コミュニケーション能力や社会的な教養を養う機会になる。プロジェクトに関わる学生の成長が期待される。

20 年 月 日

法政大学総長殿

学部 学科 年 組
学生証番号
氏 名

学生チャレンジ・サポート活動予算書

収入		支出		助成を希望する費用	
① 助成金	200,000	建築材料費	146,170	144,100	
自己負担	2,070	加工費	30,000	30,000	
		施工費	20,000	20,000	
		印刷費	5,900	5,900	
合計	202,070	合計	202,070	②	200,000

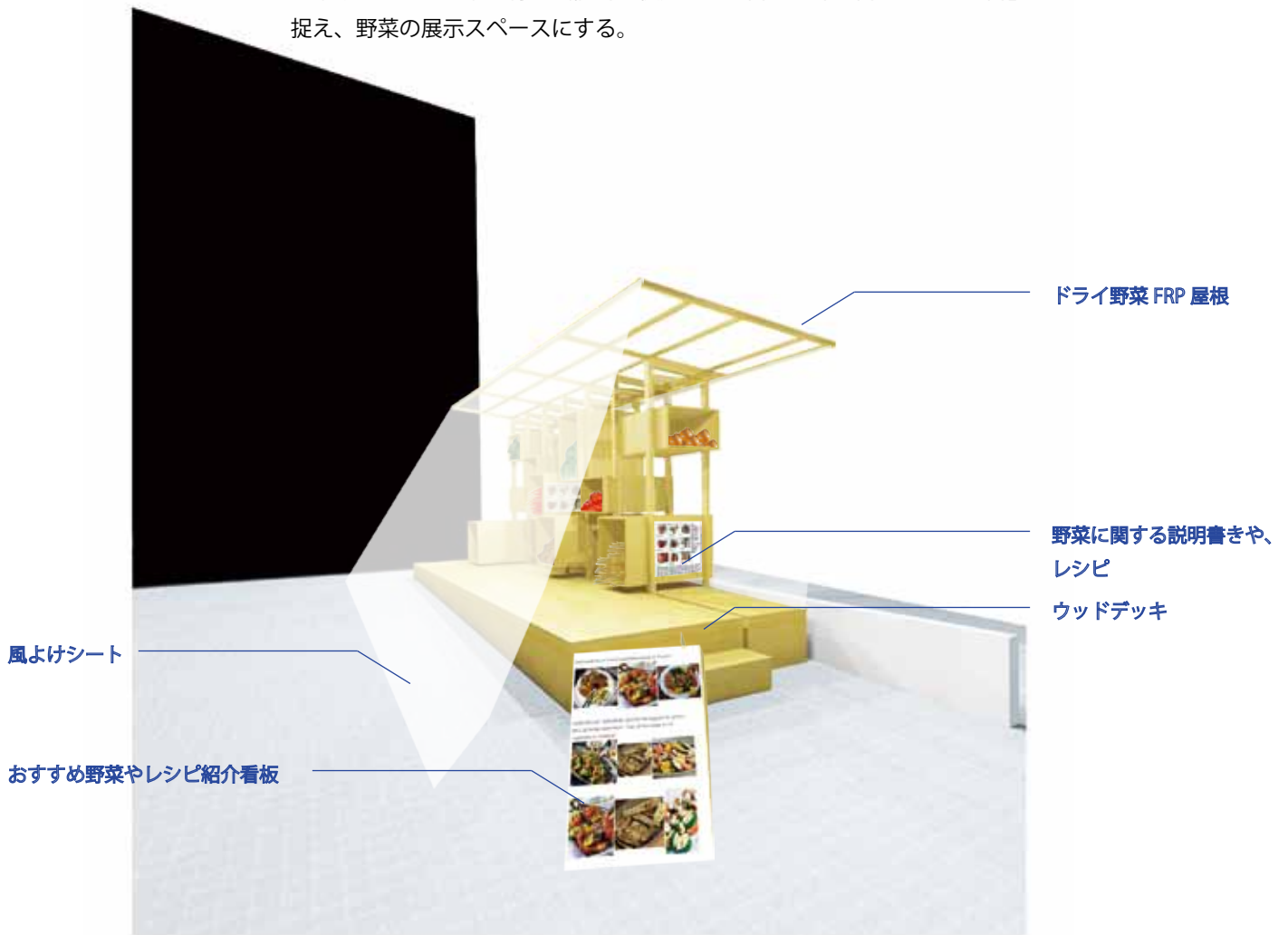
【備考】加工・施工費は日当 10,000 円で計算
印刷費はポスターA3 を 500 部印刷

以 上

Design

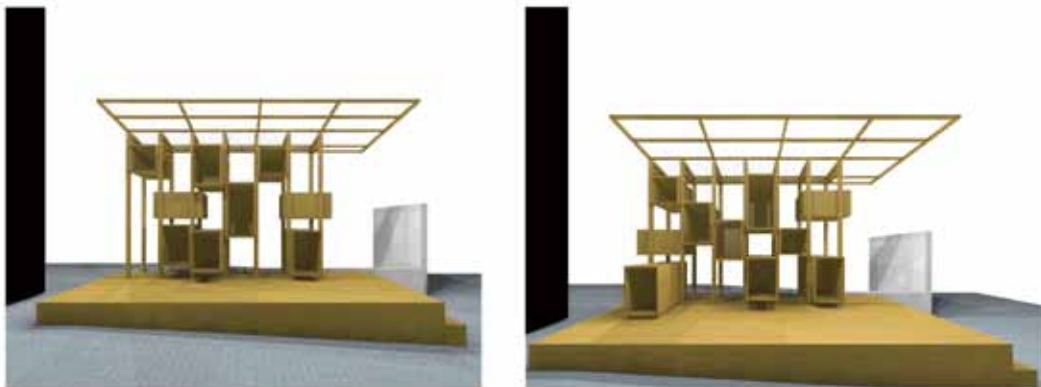
Concept of design1 柱の間

本来建具などを取り付け機能的に使用する柱間を、床の間のように「間」として捉え、野菜の展示スペースにする。



Concept of design2 可動性ディスプレイ

旬の野菜が四季折々に変化するのに応じて、ディスプレイの位置も変更可能。



Concept of design3 展示ボックス

展示用のボックスは、野菜に合わせオーダーメイドで作られる。

